

太宰府天満宮と安楽寺

太宰府天満宮は、菅原道真(845~903年)を祀る 12,000 以上の天神社の総本宮です。道真は天神として神格化され、学問・文化・芸術の神として信仰されています。太宰府天満宮は神道の信仰の場ではありますが、もともとは安楽寺という仏教寺院の跡地であり、時代を経て現在の太宰府天満宮の複合体へと発展しました。彼の死後、彼をのせた天神の葬送車を引く牛は横になり動かず、道真の信者はその場所に道真の遺体を埋葬し、その場所は道真を祀る神社となりました。

道真の墓とその周辺は、時間とともに進化しました。神道崇拝の場所である太宰府天満宮にはもともと安楽寺がありました。日本中の道真に捧げられた何千もの神社にもかかわらず、太宰府天満宮は彼の真の休憩所です。

ここでは、安楽寺に言及する唯一の現存する文書を見ることができます。文書は 1555 年のものです。境内から出土した瓦の一部には「安楽寺」の文字が刻まれており、これを裏付けるものとなっています。

太宰府天満宮には、いくつかの仏教的な特徴である太鼓橋が残っています。太鼓橋は、最初のアーチ形の橋が過去を、平らな橋が現在を、二つ目のアーチ形の橋が未来を表わし、常に一つの思想しか持たないという仏教的な理想を反映した三つの要素を有しています。